

広報

きたもと

きっと、もっと、きたも트가好きになる 旬な話題をお届け!

12月
2017 No.958

特集面

伝鎌倉街道 をめぐる

北本の歴史を探る④



伝鎌倉街道 をめぐる

北本市内の西部には、古くから鎌倉街道と伝わる古街道が南北に通っています。

一般的に「鎌倉街道」とは、鎌倉幕府の成立とともに整備された上道・中道・下道の三線をいいます。この道路は、鎌倉と関東諸国・信濃・陸奥とを結んで、各地に所在する御家人や地頭を参集させるために大きな役割を果たしていました。そして、この幹線を中心として大小の枝道が発達していました。

市内の鎌倉街道は中道から枝分かれして荒川沿岸を北上し、群馬

県へと通じる支道である上野道と考えられています。

この街道沿いをつぶさに調べると、中世の城館跡や寺院等の文化財が数多く存在し、歴史的にも重要な道であったことがうかがえます。

街道筋は、上尾市の平方から桶川市の川田谷を経て、市内では庚塚（芭蕉句碑）―石戸宿―須賀神社・水川神社―道標「これより石と舟とミち」―鉄砲宿―鴻巣市域へと結んでいたと伝えられています。今回は、このルートに沿って、歴史の道を探っていきます。

街道を彩る文化財

鎌倉街道筋は、徒歩での歴史散歩にうってつけの古道です。歩くことで、普段は見過ごしている風景をぜひ発見してください。自然が多い地区でもあるので、季節に応じた楽しみ方ができます。これからの冬場は少し寒いですが、富士山を眺めながらの散歩はお勧めです。（地図は次ページ参照）

1 芭蕉の句碑

エノ木の古木の下には元禄12（1699）年に建てられた庚申塔が祭られ、芭蕉の句碑が建立されています。句碑は地元が集まった石戸連という俳人のグループが、作句の上達を祈願して、嘉永4（1851）年に奉納したものです。正面には「原中やものにもつかず 啼雲雀」と、松尾芭蕉の句が刻まれています。

2 下宿遺跡

遺跡は荒川の低地に突き出した台地上にあります。平成10年に行われた発掘調査において、平安時代の紡錘車と呼ばれ

3 放光寺と天神社

放光寺は天台宗のお寺です。境内には中世の板石塔婆があることから創建は古いと考えられます。石像物では、閻魔大王像が目立ちます。最近では三春滝桜の苗木が成長し、見ごたえのある枝垂桜に成長しています。

同じ敷地内にある天神社は地元の氏神として祭られています。祭神は菅原道真で、学問の神様です。また、天神社には樹齢約600年の天然記念物である「ムク」をはじめ、市指定文化財が五件も所在します。



コラム Column

巖島神社の伝説

神社にあった杉の大木には「龍灯杉」という名前がありました。これは万治3(1660)年7月のとある夜に、杉に龍が巻き付いて今にも昇天するさまを村人が見つけたことから言われるようになりました。

また、神社に祭られるご神体は、かつて江戸神田に住んでいた中島屋久四郎が自分の家に祭っていた弁天様でした。ある日この弁天様が夢枕に立って、これより北の楓ヶ丘という景観地があるから移せと言われました。その言葉に従って各地を訪ね、現在の地を探し出して、巖島神社へ安置したといわれています。



村の総領守です。神仏習合の時代であった江戸期には、寺のお坊さんが神主を兼ねていたこともありました。氷川神社ではその別当として隣接地に「龍泉寺」というお寺がありました。寺跡近くには今でもお坊さんのお墓が残されています。

7 氷川神社
神社の創建は貞観11(869)年と伝えられ、市内最古の神社とされています。その後文明5(1473)年に、現在のさいたま市大宮区にある武蔵一宮「氷川神社」から祭神を分祀して現在に至ります。旧高尾村の総領守です。

6 須賀神社
旧荒井村の鎮守で、またの名を「荒井の天王様」といいます。創建は約400年前と伝えられています。須賀神社には昔から面白い習俗が残っています。それはキュウリを奉納してはいけなかったそうです。神社の御紋がキュウリの切り口に似ているためであったとされています。また、鳥居近くに道祖神が祭られています。これは旅の神様として、現在でも履物を供え祈願する信仰が残ります。今では、現代風にスニーカーなどが供えられています。

8 巖島神社
石段を谷底に向かって降りたところに池があり、その中央の小島に神社は祭られています。ここにはかつて太さ9mにもなる大杉があったといわれます。祭神は弁財天です。その昔は周辺の高台に楓の樹が多く、「楓ヶ岡」と呼ばれていました。神社には安産祈願に訪れる参拝者が多くいます。その際には拝殿の腹帯を持ち帰ることができ、無事安産となった際には倍返しをします。

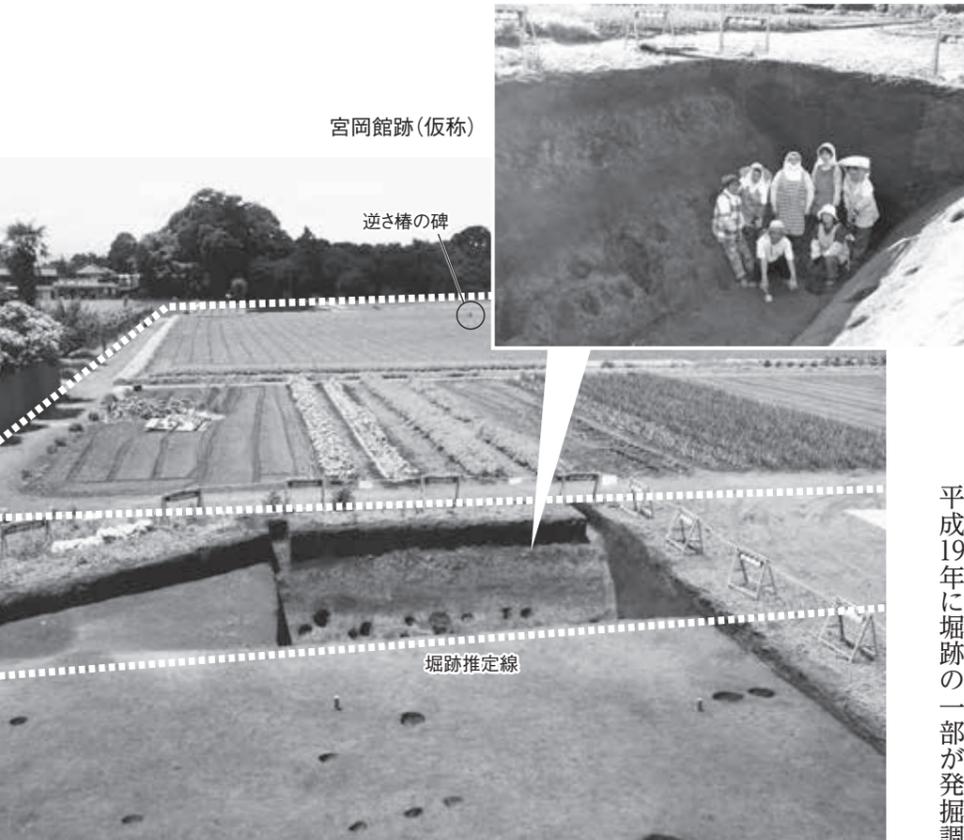
9 道標「これより石と舟とミち」
五差路の交差点にある道しるべで、銘文は「ここからは石戸の舟渡(石戸河岸)への道」という意味です。現在は模造塔ですが、実物は享保12(1727)年に建立されました。河岸場の存在を実証する資料として、市指定文化財となっております。教育委員会で保管しています。

10 鉄砲宿
鉄砲宿は北袋地区に残された小字です。その昔、石戸城に仕えた鉄砲鍛冶職人が集団で住んだ場所であると伝えられています。少し歩くと「鉄砲宿」の銘文が残る地蔵が祭られています。

4 北向き地蔵
文字どおり北を向いている石造りの地蔵菩薩で、道しるべになっています。建立は享保14(1729)年、高さは台座を入れると250cmもあります。冬には毛糸の帽子を冠っている姿も見られます。地蔵の足元を見ると、いつも泥の団子が増えてあります。これはお地蔵さまにお願いをするときの約束です。もし、願いが叶ったらお米の団子をお供えすることになっています。

5 逆さ椿の碑
石戸城に出陣してきた上杉謙信の兵がこの場所に陣を張って、かまどで煮炊きをした場所だといえます。謙信たちが引き上げた後に、一本のかまど杭から芽が出て、椿の花が咲いたそうです。枝が幹から下に向かって伸びていたから「逆さ椿」、白い椿であったから、越後の雪にちなんで「越後銀」とも呼ばれていました。椿の木は戦前までは残っていましたが、今は枯れてしまい、椿を記念する石碑が建てられています。

1 堀ノ内館跡
石戸城に仕えた上杉謙信の兵がこの場所に陣を張って、かまどで煮炊きをした場所だといえます。謙信たちが引き上げた後に、一本のかまど杭から芽が出て、椿の花が咲いたそうです。枝が幹から下に向かって伸びていたから「逆さ椿」、白い椿であったから、越後の雪にちなんで「越後銀」とも呼ばれていました。椿の木は戦前までは残っていましたが、今は枯れてしまい、椿を記念する石碑が建てられています。



宮岡館跡(仮称)

逆さ椿の碑

堀跡推定線

館跡の推定規模と堀の様子(右上)



お茶屋 古地図



お茶屋跡付近



堀ノ内館跡

街道沿いに残る城と館

北本市の西部には、鎌倉時代から室町時代、戦国時代に至る城や館跡が点在しています。このうち鎌倉街道沿いには五つの城跡、館跡などが見られます。城館の立地は、街道と強い関係にあることがわかります。

1 堀ノ内館跡

石戸宿三丁目の「堀ノ内館跡」は鎌倉時代の築城です。館の南西にある東光寺は文化財の宝庫で、樹齢八百年を超える「石戸蒲ザクラ」をはじめ、かつて日本最古の「板石塔婆」や鎌倉時代の「銅像阿弥陀如来坐像」などがあります。また、源範頼と娘とされる亀御前の伝説が残されています。

史実としての居住者は「石戸左衛門尉」とされています。

2 お茶屋跡

徳川家康は、戦国時代の末期に関東へ移封され、時に領内の視察を兼ねて、よく鷹狩りに出かけたといわれています。北本市域周辺の鷹狩りは、現在の鴻巣駅南側にあった「鴻巣御殿」を拠点として、各地で「お茶屋」と呼ばれる休憩所に立ち寄ったとい

連合軍により包囲された松山城(吉見町)の救援のため、石戸城に着陣した史実が有名です。

4 宮岡館跡(仮称)

逆さ椿周辺には、近年新たに室町時代の館跡が見つかりました。その規模は逆さ椿の碑を取り囲むように約百m四方の範囲に館があったと考えられます。

平成19年に堀跡の一部が発掘調

います。

子供公園西側には、この「お茶屋跡」と呼ばれるエリアがあります。近くには「御殿稲荷」と呼ばれる個人宅の氏神があり、家康を顕彰したものと考えられます。

3 石戸城跡

石戸宿六丁目にある石戸城跡は遺跡としての残存状況が良好なため、「県選定重要遺跡」に選ばれています。

歴史上では石戸城は北条・武田・上杉等の戦国大名をはじめ、上田・太田氏等の北武蔵の武将と関わった、大宮台地上における最大級の城郭といわれています。築城については、今から500年余り前に上杉・太田氏方の軍事拠点の一つとして造られたと考えられています。

永禄6(1563)年2月には、上杉謙信が、北条氏康と武田信玄の

査で発見されました。館の名前はまだ決まっておらず、ここでは仮に「宮岡館跡」としておきます。

発掘された堀跡は深さが約3mで、箱薬研堀と呼ばれる型式で掘られています。また、堀の斜面には乱杭を埋めていたようで、小穴が多数確認されました。

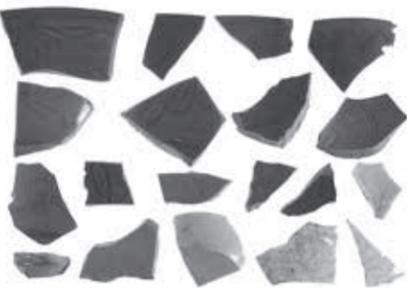
逆さ椿が伝えていた伝説が史実につながる例として注目を浴びたとともに、未知の館跡発見が話題となりました。

5 大宮館跡

高尾さくら公園周辺からは、高尾の阿弥陀堂を取り囲むような堀跡が見つかりました。このことにより、鎌倉時代にさかのぼる館跡が確認され、付近の小字をとって「大宮館跡」と名づけられました。

館跡の発掘調査では中国から輸入された青磁などが出土しています。このため、居住者は格の高い人物が想定されており、言い伝えでは石戸氏の一族である、石戸頼兼が住んでいたとされています。

また、源範頼の伝説が残されています。堀ノ内の言い伝えとは異なり、亀御前は範頼の妻として、夫の悲報を聞き、この地で入水したと伝えられています。



大宮館跡から出土した青磁片



石戸城跡

コラム Column

御家人「石戸左衛門尉」

石戸左衛門尉は「堀ノ内館」の居住者とされ、鎌倉幕府の御家人として当時の史料に名が残ります。『吾妻鑑』には2か所に記述がみられ、寛元3(1245)年は鶴岡八幡宮放生会(捕らえた魚や鳥を野に放って殺生を戒める行事)の馬場の儀において、重要な役割を足立直元等とともに務めたとして

います。また、寛元5(1247)年には將軍藤原頼嗣の参宮に際する行列で、將軍御後布衣衆として参列しています。石戸氏は29番中25番、安達義景は6番に列していますが、武蔵国の御家人はこの2人だけであり、その格の高さがうかがわれます。